

「税がつなぐ、私たちの未来」

津市立東橋内中学校

3年 丸橋 尚人

私が暮らす三重県津市には、大門という地区があります。かつてはアーケードがあり、多くの人でにぎわっていましたが、今ではシャッターを下ろす店が目立つようになりました。それでも、この地には「津観音」という誇りがあります。浅草観音、大須観音と並ぶ日本三観音のひとつで、昔から人々に親しまれてきました。そんな歴史ある町で、私は毎日学校へ通っています。

私の学校には、フィリピン、ペルー、ボリビアなど多くの国のルーツを持つ友達があります。クラスの6割以上が外国につながりを持ち、毎月のように転入生が来るのも当たり前です。その度に私たちは日本語や学校のルールを教え合い、自然と仲良くなります。言葉や文化は違っても、彼らは私にとって大切な友達です。あるとき疑問に思いました。日本人は憲法で「教育を受けさせる義務」があり無償で義務教育を受けます。では外国にルーツを持つ友達はどうか。調べると、彼らも無償で通えるけれど、それは「義務」ではなく「権利」として認められていることが分かりました。

さらに知ったことがあります。国税庁のホームページによると、中学生一人あたりに年間約1,086,000円もの税が使われているという事実です。驚くほどの金額であり、それは私だけではなく外国にルーツを持つ友達にも注がれているのです。思い出すのはコロナ禍のことです。友達の一人が「弟や妹の面倒を見なければならないから、学校へは行けない」と言っていました。保護者が派遣切りにあい、遠くの工場で長時間働かざるを得なかったからです。給食費や教材費の負担もあり、学校に来られなくなる子が出てもおかしくありませんでした。そんなとき、税による補助制度があったからこそ、多くの友達が通い続けることができました。

遠い国から日本に来て経済を支える人々がいます。その子どもが教育を受けられなければ、将来どうなるのでしょうか。もし税の仕組みがなければ、今一緒に笑い合っている友達は机を並べられなかったかもしれません。考えるほどに「税のおかげで学べているのだ」と実感します。税は数字ではなく、友達の未来を支え、私の日常を守る温かい力です。私は津観音の町で、多様な文化を持つ仲間と共に成長しています。その土台には必ず税があります。想像してみてください。もしあなたの友達が「お金なくて学校に行けない」と言ったら。もし自分の子が「勉強が続けられない」と言ったら。胸が締めつけられるのではないのでしょうか。

私たちは税によってつながっています。税は「国のもの」ではなく、「未来を守る力」です。だからこそ、私は感謝し、この制度を次の世代に受け継いでいきたい。今日も友達と笑い合い机を並べています。その笑顔を支えているのは、確かに税なのです。